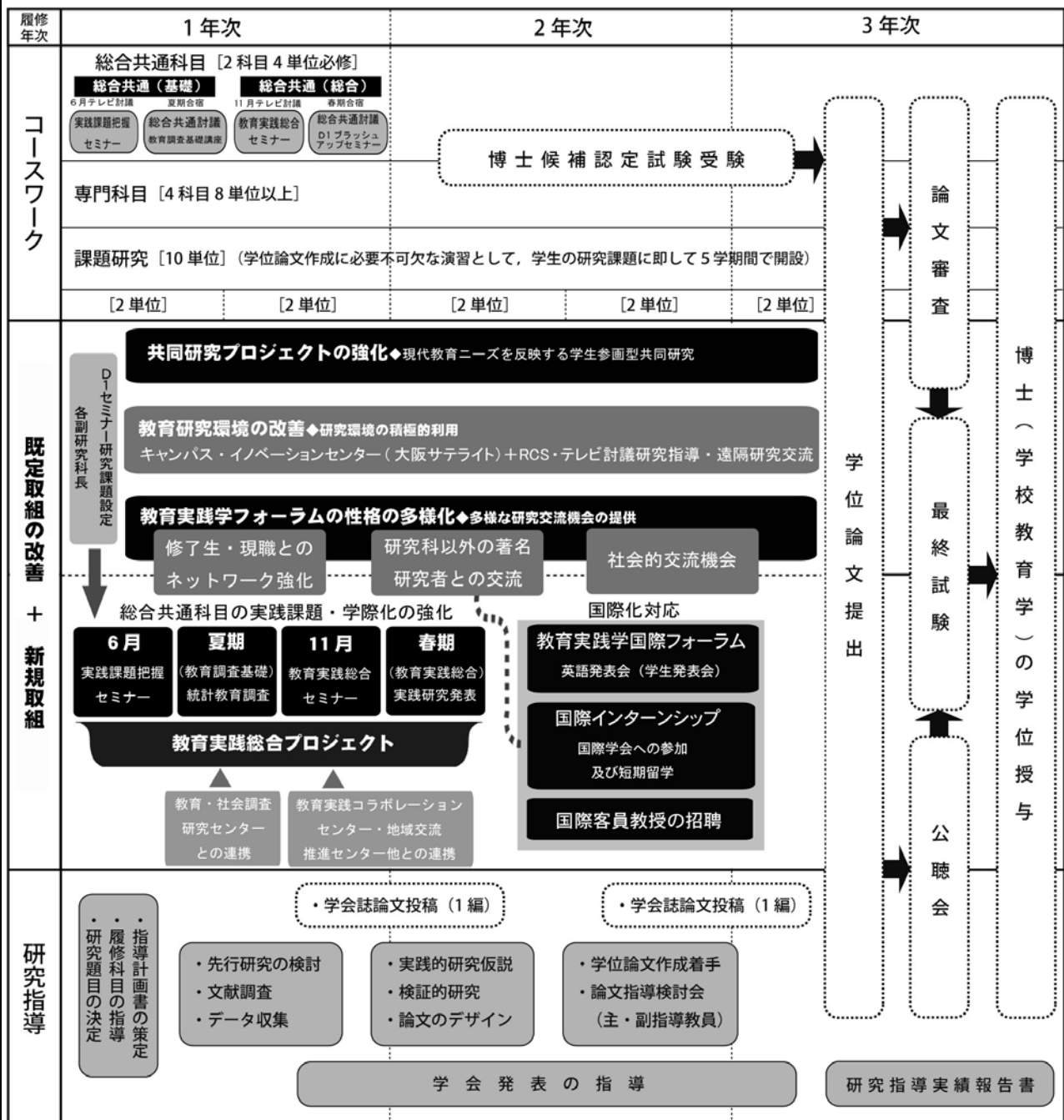


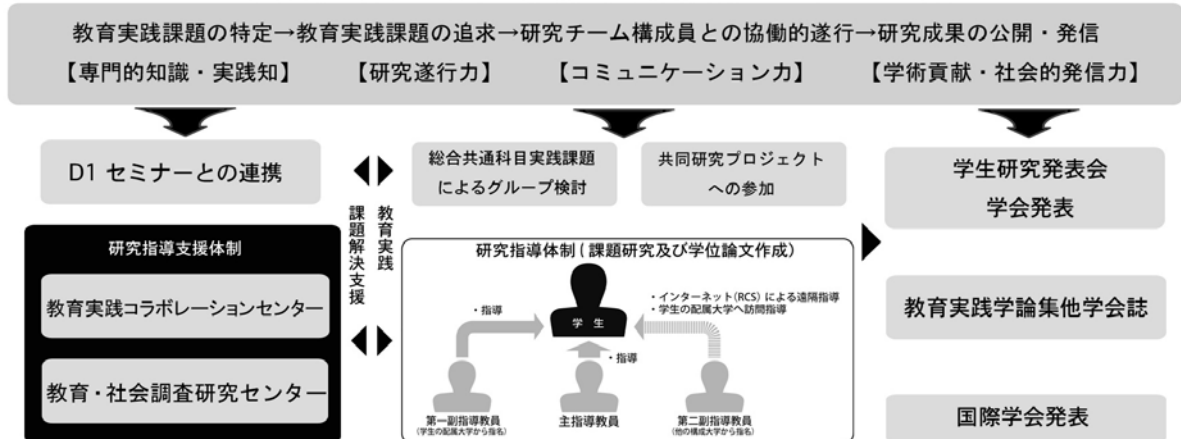
教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	兵庫教育大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	学校教育実践学研究者・指導者の育成 (教職大学院指導教員養成を視野に入れた体系的教育課程の構築)		
主たる研究科・専攻名	連合学校教育学研究科		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取組実施担当者	(代表者) 渡邊 満		
<p>[教育プログラムの概要]</p> <p>【連合大学院の特色と教育プログラムの関係性】</p> <p>本学の連合学校教育学研究科は、教員養成系大学では最初に設立された博士課程であり、学位に「学校教育学」を付記する我が国唯一の大学院である。兵庫教育大学、上越教育大学、鳴門教育大学及び岡山大学の4大学の連合によって構成される本研究科は、平成8年の設立当初から一貫して「学校教育の様々な課題に即した実践的かつ高度な研究：学校教育実践学」の構築を志向し、研究機能と教育機能を一体化した大学院教育を展開・推進している。</p> <p>中央教育審議会は平成17年12月「今後の教員養成・免許制度の在り方について」の中間報告で「教職大学院」制度創設の必要性和意義を指摘した。本学はこれを受け、平成19年度に新専攻（学校指導職専攻・教育実践高度化専攻）を立ち上げ、平成20年度には「教職大学院＝専門職学位（教職修士）課程教育実践高度化専攻」の設置をめざして準備を進めている。高度な専門性と実践能力を持った教員養成をめざす「教職大学院」では、指導教員の4割以上を実務家教員とすることが求められているが、「教職大学院」において指導にあたる実務家教員は、本学の連合学校教育学研究科（博士課程）が養成をめざす人材像そのものである。</p> <p>本事業は、本研究科のこれまでに積み重ねた実績を継承・発展させ、教職大学院の実務家教員を含めた高度な資質能力をもつ学校教育実践学研究者・指導者のより系統的な養成を実現するために、現代の教育課題に対する即応性と実践性を高めた教育課程を再編し、学校教育実践学の構築を具現化することを目指すものである。</p> <p>【教職大学院」に連動する教育課程の体系化】</p> <p>①【教育実践総合プロジェクトの実施】 「教職大学院」設置に伴う専門職学位（教職修士）課程と博士課程の接続性と親和性を確保するために、横断的なテーマに基づくより実践性の高い「教育実践総合プロジェクト」を設定し、総合共通科目と連動して単位化する。</p> <p>②【総合共通科目の改編】 従来の総合共通科目は、連合大学院の特性を生かして構成大学の教員が担当する学際的・総合的教育内容を編成し、講義だけでなく教育課題の討議を行うものであったが、本事業では、上記の「教育実践総合プロジェクト」という形態をベースに4段階の合宿及びテレビ討議形態に改編を行い、院生の共同チームによる《総合共通（基礎）》教育課題の同定→教育調査法基礎演習・共通実践課題の追求→《総合共通（総合）》共通課題解決方途の探求→共同研究発表というより系統化した形で教育実践課題の探求につながるものにした。</p> <p>③【共同研究プロジェクトの見直し・強化】 現代の教育ニーズ、具体的には「義務教育制度の見直し」、「学ぶ意欲と学力」、「不登校」、「幼小連携」、「キャリア教育」、「食育」などをふまえたテーマ設定により、地域協働型かつ学生参画型の共同研究プロジェクトを専門科目、研究指導とより密接な形で展開することを可能にした。これにより、従来の共同研究プロジェクトの強化を図り、さらに産学連携型の共同研究プロジェクトも導入して、社会連携を視野に入れた戦略的な位置づけにも配慮することとした。</p> <p>④【国際化への対応】 国際的に高い資質を持つ学校教育実践学研究者・指導者を育成するために、国際客員教授の招聘(短期)を行うと同時に、国際インターンシッププログラムにより、学生を構成大学別に海外姉妹大学へ短期間派遣を行う。これにより国際的な研究調査、学会発表などの国際的な研究交流を図る。姉妹大学の人材をより積極的に相互活用した広域連携を図ることは、姉妹大学提携を実質化し、互恵的な価値があると考えられる。</p> <p>⑤【各種センターとの連携】 総合共通科目の見直しと連動して平成17年度本学に設置された「教育・社会調査研究センター」の人材を活かした「教育調査基礎」講座を設定し、教育調査法や統計学、データ・アーカイブ利用法などを教育実践学の基礎的知識・技能として定着させる。また、「教育実践コラボレーションセンター」、「地域交流推進センター」などを活用し、教育現場との連携的な調査研究などを実施するものとする。</p> <p>【教育研究環境の改善】</p> <p>① 大学と教育現場を結ぶ「教育実践コラボレーションセンター」を活用し、常に教育現場と有機的に連携した研究環境を醸成する。</p> <p>② インターネットを利用したReal-time Collaboration System(RCS)やテレビ討議システムを拡充整備し、e-learning システムを構築することで、連合形態の地理的広域性による時間・経費上のデメリットを解消する効率的運用を図り、構成大学間、大学・大阪サテライト間及び教員と学生間の遠隔研究指導、遠隔研究討議などを活性化させる。</p>			

履修プロセスの概念図（履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。）



教育課程の体系化に伴う知識・技能及び教育実践コンピテンシーの明確化



<採択理由>

本プログラムは、学校教育実践学研究者・指導者の育成プログラムとして、教職大学院指導教員養成を視野に入れた体系的な教育課程の構築を意図しており、教育課程の展開が比較的緻密で組織性があり、成果が期待できる。また、成績の観点評価や疑義への申し立て制度を設けるなど学生の視点に立って積み重ねられてきたこれまでの大学院教育のあり方との連動性も高く、その実質化を図るものとして期待できる。

ただし、プログラムの趣旨を実現する上では、連合大学院の中での兵庫教育大学の役割の明確化、教科教育実践学専攻と学校教育実践学専攻との違いを意識した展開、国際発信力の強化に向けた具体的な施策の構築が求められる。